

洋書輸入協会会報

VOL. 4
NO. 7

(通巻39号) 昭和45年7月

理事会報告

6月10日(水)

- (一) 仏 Hachette 社発送、シベリヤ鉄道経由混載貨物便の遅延について。(白水社本田氏伝言)
- (二) 英 Associated Book Publishers Ltd. より通知のあった英国 New Decimal Currency の table について説明。(相良氏)
- (三) 東大雑誌問題経過報告。(関口氏)
- (四) 総務委員会より。(関口氏)
五月分収支計算報告。検討の結果問題なし。
- (五) I. R. M. Moodys の件。来年度の価格検討は7月以降となる。
- (六) 米 Sadtler 社より、日本国内の価格設定及び Trade Custom についての質問状と、それに対する返信内容の討議。
(一条氏)
- (七) 資料委員会報告。(服部氏)
 - (1) 雑誌カタログ価格について。
 - (2) プレナムプレス・コンチネンタル社の件。
 - (3) Sole Agent の国内価格設定について。
- (八) Sole Agent の権利の相互尊重について。(鈴木氏)
- (九) 同業者間の卸価格について。(石内氏)
- (十) 洋書交換委員会より。(服部氏)
副委員長を北沢本店に決定。
- (十一) 経営委員会より。(石内氏)
 - (1) Agent リストの作製を他へ移管したい。……結論出ず。
 - (2) 委員各メンバーに、専門分担を持ってもらって運営したい。
 - (3) 協会自体の信用を高めるため、協会内の知名人にその労を取って貰いたい。
 - (4) 将来協会独自の健康保険組合結成を展望しつつ、現出版健保加盟の各社の毎月支払総額をアンケートしたい。
- (十二) 価格査定委員会より。(一条氏)

協会の査定をもつと利用するよう会員にアピールする。各得意先へも之の利用をPRすることによって無用のトラブルとエネルギーを避けるようにしたい。

(戊) 文化厚生委員会より。(渡辺氏)

副委員長、東光堂の他に、白水社と決定。

今年の企画 ① ボーリング大会

② ダンスパーティ

③ 同好会をふやす。短歌、釣、ゴルフ等。

海の家については、毎年の余剰予算を積み立てていくということを考えたい。

フランクフルト旅行。現在30名、残10名。

(己) 書籍・雑誌各国別輸入額統計提出。

6月12日(金)

東西合同理事会(合同懇親旅行時)

(一) 東大雑誌問題について。

(二) 中・四国地区懇談会結成の件。

6月26日(金)

(一) 経営委員会より。(石内氏)

札幌市の浪速書房専務の、経営に関するユニークな研究発表のテープを入手されたので、理事一同にて之を聴取、討論。

(二) 総務委員会より。(関口氏)

(1) 東西合同旅行収支計算報告……承認。

参加者:	東京	32名	
	関西	11名	計 43名
総費用:			554,651円

(2) 洋書輸入協会規約及び会員名簿、昭和45年度印刷代金見積提出……承認。

単 価: 38%up

総 額: 9万円

(三) 東大雑誌問題経過報告(関口氏)

(四) 雑誌資料委員会より。(井出氏)

Business Week の件対策を協議。

(戊) 文化厚生委員会より。(渡辺氏)

短歌同好会を作ったので、大いに利用されたい。

- (イ) 和書業界において、書籍の正味体系が7月から大幅に簡素化されたが、これに関連して洋書の各書店への協力方の要請状が到着している。之をどのように取扱うか。(一條氏より)

検討の結果、輸入洋書については、原則的に拘束されないことを理事会として確認。

- (ロ) 通関統計の数字について疑問点を検討。(相良氏)

- (ハ) 英国において、7月14日より National Dock Strike が行われる可能性があるとのこと。新聞報道等要注意。(相良氏)

- (ニ) 米国の郵便料値上げの件。(相良氏)

今年7月1日よりは行われなかったことが確実となった。但し年内に行われる公算は高く、又郵便料値上りに関係なく諸経費の関係で、来年度分(雑誌)は、例年より幅の大きな値上りをする可能性がある。

- (ホ) 来日外人について。(渡辺氏より)

来日外人についての会報記事ニュース欄を興味深く見ているが、之が事前に分らないものであろうか。

検討の結果、各社より外人来訪の予定を入手した場合、乃至は来訪があった場合はすぐ事務局へ報告、会報に掲載することとする。

- (ヘ) Hachette 社のシベリヤ鉄道経由混載貨物の件。(井出氏)

今回は挫折したが、洋書輸入協会としては之をいとぐちとして、出来るだけ何等かの形で実現を計るよう検討すべきではなかろうか。

- (ト) 協会事務局にて、多人数の会合も出来るよう折畳椅子の備付けを要望。

- (チ) 次回懇談会の日程打ち合わせ。

洋書輸入協会 中・四国懇談会の発足

先般らい上記の懇談会を設けることで打ち合せ中の処設立に意見の一致をみましたので昭和45年6月6日丸善㈱広島支店に於て設立総会を開催しました。

参加者	海外出版貿易㈱	広島支社	佐藤利邦
-----	---------	------	------

〃		岡山支社	岡田季信
---	--	------	------

㈱紀伊國屋書店	広島営業所	山下猛
---------	-------	-----

〃		岡山営業所	岩清水哲哉
---	--	-------	-------

丸善	㈱広島支店	金沢康雄
----	-------	------

(下岡・佐藤)

〃 岡山出張所 伊丹利太
〃 松山営業所 照尾重和
（株）日米センター 前田方一
日本洋書販売配給（株）広島出張所 平木隆士
（欠席）三洋出版貿易（株）新居浜出張所 川木所長
議 題

- (1) 洋書輸入協会 中・四国懇談会設立の件。全員賛成
- (2) 規約決定
- (3) 事務所は丸善（株）広島支店内に設置と決定
- (4) 幹事選出 会 計 担 当 丸善（株）広島支店
広島地区 海外出版貿易（株）広島支社
岡山・四国地区 （株）紀伊國屋書店岡山営業所
- (5) 会費の決定

以上決議の上、引き続き懇談会に移り意見の交換を計った。

尚規約は下記の通り。

記

洋書輸入協会 中・四国懇談会規約

- 名 称 本会は洋書輸入協会 中・四国懇談会と称す。
- 会 員 本会の会員は中・四国地区所在の洋書販売業者を以って組織する。
- 目 的 本会の目的は、会員相互の親睦を図り、共在共栄の精神に基づき公正な経済活動の機会を確保し、併せて海外出版状況の情報交換・研究を行い、以って会員相互の発展を計る。
- 事務所 本会の事務所は広島市本通 5 番 8 号丸善（株）広島支店内に置く。
- 幹 事 本会の幹事は、任期一カ年とし、会員の互選により 3 名を選任する。再任は妨げない。
- 会 議 本会の会議は総会、地区会（広島地区、岡山・四国地区）に分け、総会は例年 5 月、地区会は隔月に開催するが幹事が必要と認めた時、又は会員の要請があった場合は随時開催する。
- 会 費 本会の会費は月当り 1,000 円とし、これにより本会の経費に充当する。
臨時会費は、その都度出席者より徴集する。
- 付 則 その他の事項については、洋書輸入協会規約を準用し、其都度協議決定する。

昭和45年6月6日

JBIA No. 97 にて委員会委員委嘱の件は次の通りご受諾を得て決定しましたのでご案内致します。

委員会メンバー

委員会	委員長	副委員長	委員
総務	丸 善	洋 販	内外交易
会 報	紀伊国屋	丸 善	メクレンブルグ
渉外 P R	U S	三 洋	竹 内
経営研究	東光堂	U S	
雑誌資料	日 質	国 際	南江堂
雑誌補充	三 洋	日 質	海外出版
価格査定	極 東	紀伊国屋	欧明社
洋書交換	国 際	極 東	北 沢
通 関	丸 善	紀伊国屋	明治書房
文化厚生	洋 販	東光堂	白水社
			中央洋書・福本・医学・紀伊国屋・三品・UPS アカデミア・教文館・極東・三省堂・東販 エンデルレ・金星堂・日質・タトル 中央洋書・郁文堂・三善・オリオン・伸興・洋販 雄松堂 海外出版・紀伊国屋・北尾書籍・丸善・ナウカ・ 三洋・US 国際・丸善・南江堂 富士洋書・医歯薬・オリエンタル 美術出版・原・イタリア・関東書籍・日質 アカデミア・国際・東光堂・有隣堂 第三書房・ゲーテ・白鷗・三洋・トッパン・ UPS

通関委員会報告

東京税関東京外郵出張所に次の方々が新任されましたのでお知らせいたします。

管 理 課 長 小 林 謙 三 氏

統 括 審 査 官 植 田 栄 一 氏

輸入通関才一部門担当

なお前管理課長久代 力氏は東京税関輸出部統括審査官（航空輸出通関才二部門担当）に、前統括審査官田畠潤一氏は東京税関貿易センタービル出張所関税広報官に栄転されました。東京外郵通関協議会の運営及び BOOK 通関に当り両氏より当洋書輸入協会に対し多大なる御指導を賜りましたことにつき深尽なる感謝の意を表すると共に併せて報告いたします。（丸善 柴田記）

東西合同懇親旅行会

いっときの夏の日差しが川面に輝いて、梅雨入りまえの日本ライン下りは舟あしも快調だった。逞しい腕に漕がれる和船の櫓が水を切って、船はときおりしぶきを上げながら川下へと進んでゆく。東京を発ったときの雨雲も、下呂温泉での一夜が明けて見事な晴天にかわり、髪を乱す川風が汗ばんだ額にむしろ爽やかだった。

協会恒例の行事となった春の東西懇親旅行もすでに回を重ね、43名のすでに親しみをました顔ぶれが、下呂温泉一泊、日本ライン下り、明治村見学の日程を和やかな談笑のうちに楽しんでいる。自社では責任ある地位におられる方々も社内旅行とは異った気楽さから、宴会の隠し芸も、夜の散策も、マージャンや囲碁も一種無責任な熱心さで進行したように見受けられた。日本経済高度成長の一端を担う誇り高き人々のレクリエーションとして、この慎しやかさはやはり讃えられるべきではないだろうか。

宴会の余興は、今年も大阪U.S.の岡崎さんの大そう真面目でかつ犠牲的な名司会で進められ、多くのタレントが得意の喉を披露されて私たちの目をさまされた。いささか毒舌的といえなくもないご指名にしたがって、つぎつぎ熱演なさってくださった方々に、あらためて感謝いたします。実際のところ、無芸無能の人間にとっては、マイクの前に立ってくださる方々は救世主にもみえ、ありったけの賞品を山分けしていただいてもよいとさえ思ってしまうのだ。

下呂から川下りの乗船場までのバス行程は、右に、やがて左手に飛弾川を見ながら山溪を縫い、ガイド嬢の美声の間に、委員長の『今年のヨーロッパ・ツアーへのお誘い』のご挨拶も入って、多くは夢心地のまま運ばれたかのようだった。

犬山で船を下り昼食をすませたあと、すぐ帰路につかれる何人かの方々に別れをつけて、私たちは再びバスで明治村に向う。現代日本の故郷、和洋混淆のわが国黎明期の建造物が、百年を経た今日すでに入場料を要する別天地の遺物なのだ。いや各々の建物について言うなら、いずれもまだ百年の年月を数えるには到っていない。しかも、河原町の聖ヨハネス教会も、東山梨郡役所も、二重橋のガス燈も、どれもつい先年まで市民とともに街にあって生活していたものなのだ。進歩のきわみ、人間はいずれ大正村や昭和都市を地上にのこして、月世界に移住することにもなるのだろうか。感慨と数葉の絵葉書がこの日手もとに残った……。

去年の鳥羽での昼食会では、全国的な大学紛争の影響による被害やその対応策についての報告、論議が活潑だったが、70年安保も盛上りに欠ける何とはない平和ムード再来のためか、今年の旅行はまことに事なく、ひたすら懇親の実をあげたかと思われる。

ご多忙のなかをご参加くださった皆様、活動的な委員長のもとに委細実行の任にあたってくださいました洋販の大倉さん、事務所の寺久保さんに、紙面をかりて厚く御礼申し上げます。(文化厚生委員・記)



(下) 下呂温泉を発つ朝
旅館の前で当日の参集者一同の
記念写真。

(右上) ライン下りの船中。

(左上) 明治村の屋並を見学する
協会員。手前から
札幌電話交換局
2軒目安田銀行会津支店
その先東松家住宅



和 魂 洋 才

洋 販 ・ 渡 辺 正 広

今回、会報委員会の委員長紀伊國屋の相良さんから会報に各社の社是とか社訓、其の他協会員各社の運営に役立つような記事を書きたいので、才一回に渡辺さんお願いしませう、と言われた。

私もたまたま企業の目的とは何かということに興味を持ち、二・三の本を読んでいたので、才一回では大変おこがましいが、お引受することにした。私の文は各社の社是社訓を連載する前の序論とでもいうべきものであろう。言葉をかえていうならば、日本独特の社是とか、社訓とか或いは社歌というもの、何故できたかについての歴史的考察である。

敗戦直後はすべて日本的なものは悪いときめつけられてきた。今までのものは何でも悪い。封建的である。軍国主義的である。後進性であると。そこで企業目的など利潤追求以外何物でもないと簡単に定義づけられる傾向が強かった。企業精神などというとまるで昔の幽霊がでてきたように一笑に附せられたものである。然し、歴史は無視できない。人間性も無視できない。日本人たる事実も否定できない。日本には日本の歴史があり、伝統があり、土壌がある。これは二十年や三十年で変えられない。アメリカがどうであろうと、ソ連がどうであろうと、日本は日本なのだ。人種によって皮膚の色が異なると同様に、これは変えることのできない厳粛なる事実なのだ。戦後しばらく混乱がつづいたが、世の中が落ちつくにつれて新しくできた会社もそれぞれ社是をかかげ、社訓をうちだしてきた。今はどんな小さな会社へ行ってもある。何故であろうか。

西欧に於ては企業の目的は利潤追及である。儲けることである。儲けるということに対して何等やましいことを感じないし、極めて当り前のことと頭で考え皮膚で感じている。ところが日本では必ずしもそうではない。「あなたの会社の目的は儲けることですか」と聞かれると、何となく抵抗感を覚える。大阪では、「今日は」の代りに「儲かりまっか」といわれている。しかしそれはあくまでもユーモア的なあいさつであり、儲けることが唯一無二の生活信条とは決して思っていない。パチンコ屋のおやじでも、トルコ風呂の主人でも儲けるために営業していますと決していわない。必ず明日への健康のため、明日への英気を養うためと称している。つまり我々日本人は企業という

ものは利潤を追及しなければならないものであることは十分知っているが、それと同時に、或いはそれ以上に何物かがないと承知できない国民なのである。

ハーバード大学のヒルシュマイア教授はその著書“The Origin of Entrepreneurship in Meiji Japan”（邦訳：日本に於ける企業者精神の生成…東洋経済新報社発行）で、「慶応義塾の創設者福沢諭吉の著作に再三繰り返されているテーマは、『企業というものは利潤のため、かつ日本のため』ということである」と指摘している。更に「日本近代史の中で傑出した企業者」と激賞している渋沢栄一が「この仕事は儲かりませんが、お国のためになりますからしているのです」ということばに驚嘆している。儲からない仕事なら止めるべきであるからである。お国のためならTaxを払っているだけで十二分なわけだ。即ち、「日本の近代産業は極めて低い利潤率」であるが、「国家意識の覚醒」にその「源泉」を求めていると喝破している。彼はその結論を次のようなことばで終えている。「これら意志強固な産業の先駆者たちは、前進する国家の基準のにない手であったのである。」と。

即ち、開港、明治維新という大変革期に於て日本人は、その後進性を自覚して、大ショックを受け、官民共に日本という国を何とかして一人前にしようと努力したのである。

では昭和の敗戦という大ショックをうけた日本人はどうであつたろうか。これも一つ外国人によって判断してもらおう。戦後の日本のこの異常な発展は世界の奇蹟といわれ、諸外国の注目の的となっている。先づロンドンエコノミストが1962年にこれを取り上げ、Consider Japan（邦訳：驚くべき日本——竹内書店発行）という題名で、ノーマン・マクレーが書いた。エコノミストは引きつづきYear of the Open Door（邦訳：それでも日本は進む）。更にThe Risen Sun（邦訳：日本は昇った）と三部作に仕上げた。フランス、ドイツの各誌も日本特集号を出し、最近は米国も、タイム（1970年6月2日号）、ニューズウィーク（1970年6月9日号）、ライフ（1970年4月13日号）の各誌で特集号を出した。その何れも、「一面の焼野原の中で食するものもなく、住む家もなく、着るものもなくふるえていた日本人が、僅か二十年で世界の最も近代的な都市

に住み、世界の流行の先端をいく服を着、カラーテレビを見、世界で一番おいしいコービーフをたべている。日本は今や世界才三の国となり、もはやその地位は不動でビクともしない。70年代には或いは世界一の国になるかもしれない。その秘密は何であろうか。」というような、我々にとっては少しくすぐったい文句で始まっている。私達がいくら「日本の経済は温室経済で、本当はひよわな青白い経済ですよ。」とか「日本の経済は竹馬、アンバランス経済で、ちょっと見ると高い所にいますが、それはしっかりした大地をふまえているのではなく、よく見ると空中サーカスの綱渡りの綱の上に立っているようなもので、一歩間違えるとすぐおこちるですよ。」と説明しても聞いてくれない。そして彼等が一樣に知っているのは、くしくもヒルシュマイア教授と同じことなのである。即ち、日本のこの素晴らしい経済発達、政府と民間が一体になった働き蜂のもたらした成果であるということである。表現は各々異なるが、「経営者は自分の会社の利益を勿論真剣に考えているが、その裏に、もっと大きい会社即ち日本というものを考えている。」というのである。即ち新日本製鉄の社長は自社製品の優秀性を誇ると同時に、ロスアンゼルスに於ける日本の鉄鋼の占める割合がドイツのそれとどうであろうかを絶えず考え、トヨタの社長の頭のなかではトヨタ自動車の性能をもっとよくする事と同時に、東南アジアに於ける日本の自動車のシェアが大きな問題なのである。洋書界でも全く同じである。丸善の司社長はその著書「学燈をかかげて」のまっ先に、丸善は「創業以来、一貫して事業の主体を西欧文物の輸入におき、単に営利のみを追求する商法をとらずに、事業を通じて我国の文化を今日あらしめようとする努力」をしていると書かれている。更に丸善の目的は「日本全体の繁栄をはかり、日本国民の幸福を助成すべき」であると述べられている。

ある外人記者がある朝、世界的に有名なマツシタへ取材にいったら、社員が皆で歌をうたっていた。これは間違っ
て音楽学校へ来たのかと思ったと彼は書いている。朝、社員が社歌をうたうなどは、アメリカでは考えられないことである。彼等は、歌をうたう時間に仕事をした方が能率的ではないかとすぐ考えたがるのである。彼等の考え方は全く唯物的で精神的な要素をあまり重要視していなかったからである。ところが最近それが少しずつ変ってきた。人間が human being である以上、感情があり、価値判断があるということに気がついたわけだ。そこで日本的な経営方針に注目した。「終身雇用、長幼序列賃金制」が現在世界で真剣に検討され、「これこそが日本の巨大な

発展、大地を突き破って推進させた才一の仕組みである。」と書いた経済記者がいる。又、これが社員の会社との「一体感」を生み、この素晴らしい発展を生じたともいっている。ライフ誌は Japan Inc. (日本株式会社) という表現をしている。

これを要するに、日本の経営者も従業員も企業の目的は利益追及以前に何物かがあることを自覚しているということだ。それは昔はお国のためという表現であったし、近代的に言えば、自分の属している社会への奉仕といってもよいであろう。どんな小さな会社でも社是、社訓がある。我々は利潤追求を才一とする。なんて社の方針をかかげている会社は一つもない。もし儲けるのが 100% 目的ならば我々は下手な外国語の手紙を書くのに頭を悩ましたり、めんどろな書類をつくったり、税関と懇談したり、大学の先生方に汗をかいて換算率の説明をするのをやめて、熱海か白浜へ行って、「ダンナ、ダンナ、この写真どうです。この本すごいですよ。」といった方がよい。そちらの方がはるかにやさしく得である。ところが私達にはそれができないのだ。どんなに面倒でも、どんなに苦しくても、どんなに時間がかかっても、私達は洋書を通じて、西欧諸国の人々が何を考え、何をしたのかを知り、彼等に追いつき、追いつくことを業としているのだ。そしてその結果正当な利潤をあげ、それによってより幸福な生活をし、家族を養い、子供達を教育しているのである。だから私達は、私達の洋書輸入業に誇りをもって、しちめんどろくさい細かい、利益の少ない仕事を喜こんでしているのだ。

再び結論をいう。日本の経営者にも、従業員にも哲学がある。そのフィロソフィーレンが、お金ではないことだけは確実である。医学書院の金原社長の「まむしのたわごと」の各冊のどの部分にも、紀伊國屋の田辺社長の如何なる作品にも、日貿の望月社長の著作にも金銭をこよなく愛すという考え方は少しもでてこない。

最後に洋販の社訓、社是及び社歌を御紹介して与えられた序論を終えることとする。

社 訓 和 魂 洋 才 社 是

1. 書籍は我々の生命である。

書籍は文化財であって我々の生命である。我々は書籍によって生活し、家庭を養い子孫を教育出来るのである。我々にとって書籍は何よりも尊い宝である。

新刊は我々に糧を与うべく勇躍出陣する勇士である。

本の洪水と図書番号

小 松 三 蔵

これは、知人から聞いた話だが、実際にあったことである。

「最近、家を買ったので、必要あって税金の本を買いました。ところが、読んで行く中に、素人にもどうにも腑に落ちない箇所が2、3みつかった。出版社に電話で問い合わせしてみたが、しどろもどろでさっぱり要領を得ない。…では、著者の住所を教えてください。」

「この頃は情報時代ですからね。当社でも月に少なくとも2、3冊ずつ刊行して行かねばならず、実は、覆面著者が多いので、お教えするわけには行かないんですよ。」

成程、本屋の店頭を眺めてみると、何れがアヤマカカツバタ、税金の本だけでも専門的なものからダイジェスト迄、実に多種多様で、文字通り情報時代にふさわしい。

考えてみれば、童話の「一寸法師」一つをとり上げてみても、単行本、全集、絵本そして出版社が違い、編著者が違う。その中から、世の親達はどんな規準で選択をしているのだろうか。選択を誤った場合、一体どんな情報(情緒)公害を子供達に与えているのだろうか。

こうした問題を或る程度解決してくれるものに、ブック・レビューの存在がある。これを販売と結びつけて組織化すれば、ブック・クラブになる。ブック・クラブは本来、本屋の成り立ちにくいアメリカで生まれ、西独では小売書店と結びついて文化の大衆化を果たし、情報時代を迎えて始めて日本に上陸した。

人口密度が高く文盲の少ない日本では、書店の十分な発達を促し、これまではブック・クラブの必要性が存在しなかったようである。しかし、情報化時代を迎えて新しい事情が生れてきた。一説によれば、出版量は $2\frac{n}{5}$ の年率、すなわち5年倍増の速度で増加しているという。本年度の流

通量は4千5百億にも達するといわれているが、こうなっては全部をみることはおろか、必要な本の存在さえ見失い勝ちになる。益々増大して行く本の洪水の中で、何を読むべきか、選択的な購読をする必要が生まれてきているのである。

こうした事情を背景として、各国とも電算機による書籍情報の収集、整理及び配布が盛んだが、中でも有名なものにL/C(米議会図書館)のMARC II (Machine Readable Cataloging Project II) がある。これにはあらゆる種類の書籍情報が Machine Readable Format で読み込まれており、70を越える Data Elements から、必要な書籍情報が検索できるようになっている。L/C及び主要図書館での購入の有無も記録され、これはそのまま Reviewing information としても利用することができる。

このような大量の情報を処理するためには、本のコード化が必要であるが、米国での出版書はすべてL/Cカード・ナンバーを印刷することが義務づけられているので、MARC IIでは Control number にこのL/Cナンバーを利用している。しかし、昨年あたりから英国のSBN(標準図書番号)を併記するものが多くなった。MARC IIでも既にSBNを Data Element の一つとして拾っているのである。

もともと、SBNは英国議会図書館で考案されたが、米国でもいち早くその有用性を認めて使用しており、更に昨年末行われたISO(国際標準機構)の会議ではSBNの国際化が採択され、新たに国際標準図書番号として、全世界共通の Control number に使われて行くことになろう。

このため、従来の3セクション、9字のコードは、新たに Group Identifier (グループ又は国名番号) が付加され、4セクション10字のコードとして、例えば次のように表現されている。

(ISBN) 0-85331-253-2

Group Identifier—Publisher Prefix—Book
number—Check Digit (✓)

$$(0 \times 10) + (8 \times 9) + (5 \times 8) + (3 \times 7) + (3 \times 6) + (1 \times 5) + (2 \times 4) + (5 \times 3) + (3 \times 2) + \text{Check Digit} = 0$$

11

∴ Check Digit=2

やがて、SBNで世界中の本が探せるようになるわけだが、日本でも必要な本がいつでも探し出せるよう、こうしたシステムの導入乃至は開発が必要となっていく。ブッ

大出版社には少い桁数の、小出版社には多い桁数の Prefix が与えられ、残りの桁数を Book number とすることで、何れの場合も10字に納まるわけだが、数字のら列であるので、誤りを検出するため最後に Check Digit が1桁設けられている。参考迄にその計算方式は、Modulus (倍数) 11, Term Weight (語の重量) 10から2で、次のようになる。(✓)

ク・クラブでは既に電算機による書籍情報の蓄積を始めており、東販でも単純なものではあるが14桁の書籍コードを設けて、統計的処理に利用しているのは御承知の通りである。(筆者は丸善書籍部外雑仕入課長)

出版社在日代表の紹介

Harper & Row, Publishers, Inc.

日本代表 北村雅子

千代田区神田神保町 1-29 イチセビル

Tel. 291-6343, 4

当社は1817年創設の Harper & Brothers と、1906年設立の Row, Peterson & Company が、1962年に合併して発足した、アメリカ最古の出版社です。“古いことはいいことだ”とは限りませんが、出版という仕事では長い伝統と経験の重味がそれなりの有効性をもち、今日の Harper の本に反映しているにちがいないと誇りをもっています。

現 International Director・Robert E. Baensch の就任 (1968年) 以来新しい海外マーケット構想にもとづき機構を再編成し、これまで Harper の出版代理店をかねてご努力いただいたウエザーヒル出版社をはなれ、神保町の古いビルの3階に事務所兼ショールームを開設しました。お気軽にお立寄りくださるようご案内申し上げます。コーヒー、紅茶、緑茶いづれのご用命もうけたまわります。

出版内容は絵本から教科書、専門書さらには大衆読物にいたるまで、すべての分野にわたっています。1968年には“在野の大学出版局”と評価されて日本でもよく知られている Basic Books, Incorporated を傘下におさめ、学術出版の分野も飛躍的に充実しました。

ハードカバーはもちろんですが、Torch (社会学関係)、Perennial (文学・評論)、Colophon (アクチュアルなテーマの評論、ドキュメント) という特色のあるペーパーバックを、日本の読書人に、さらに親しんでもらいたいと思います。また H·I·E (Haper International Edition) は、従来ハードカバーでサイズも不揃いでしたが、このたびソフトカバー、同一サイズの、より廉価でハンディなテキストブックに生まれかわりました。

社の長い伝統とは対照的に、極東支配人 Robert C. Boettcher は30才を過ぎたばかり、日本代表は30才に達しない若さで、意欲満々です。よろしくお引き立てをお願いいたします。

なお、本年より Schenkman 社の distributor になりましたので、そのオーダーも Harper にお送りください。

海外ニュース

「ペーパーバックの成長率」

アメリカ書籍出版者会議 (American Book Publishers Council) が、加盟44社の実績をもとに、ペーパーバックの過去5年間の売り上げの、冊数と金額の両面の成長の調査結果を発表した。

これによると、売れた冊数の面では、1968年と1963年とを比較すれば、この5年間に34%、年平均7%の成長を示した。

金額の面では、価格の上升をもひっくり返して、売上高は5年間で89%、年平均18%の成長であった。

1968年の純売上高は36,000万ドルで、そのうち比較的値段の高い「トレード」ペーパーバックは4,000万ドルである。1963年の数字は、総額26,000万ドル、「トレード」2,000万ドルであった。

(Publishers' Weekly 6月29日号より)

「A. B. P. の売上げ記録」

イギリスの有力な出版社のグループである Associated Book Publishers Ltd. の1969年の売上げは、前年より450,000ポンド上回る7,402,000ポンドというこれまでの最高の額を記録した。これは、1968年の総額に対し、6.5パーセントの増である。この総売上げ高のうち33パーセントが国内での売上げであり、実に67パーセントが海外への輸

出による売上げである。

グループの総益金は522,898ポンド (21パーセント増) で、税金や配当等340,770ポンドを差引いた212,121ポンドが純益である。(The Bookseller 5月16日号より)

「クルスブッフ誌独立」

ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガーが主宰する政治、文学雑誌“Kursbuch”は1965年創刊以来、フランクフルトのズールカンブ社から出されてきたが、このほど新会社を設立し独立することになった。

新会社“Kursbuch”-Gesellschaftの責任者は、雑誌編集の責任者であるエンツェンスベルガーであるが、将来のマネージャーとしてクラウス・ヴァーゲンバッハが予定されている。現編集長のカール・マルクス・ミヒェルはそのまゝ留任する模様。出版の技術的な面は、クラウス・ヴァーゲンバッハ社が引受けることになっている。

(Börsenblatt, 6月19日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

- 米 Times Mirror International, Representative : Far East, より Mr. Ramon Balatbat 6月下旬来日。
- 英 Wm. Collins Sons & Co., Ltd の Mr. D. C. Hays が、7月21日より8月7日の間、新帝国ホテルに滞在する由。

出版社在日代表の紹介

McGraw-Hill Book Company

東京都中央区銀座 4-14-11 77ビル

Tel. 542-6918/9

McGraw-Hill Book Co. の母体であり世界最大の知識産業の一つである McGraw-Hill, Inc. は、四つの会社の複合体で、そのいずれもが「Serving Man's Need For Knowledge」をモットーに広く全世界へ各種の重要知識を供給している。その四会社のうちで最大且つ生粋なマグローヒルと云えば McGraw-Hill Book Co. であり、次いで McGraw-Hill Publications Co. (産業別専門誌) である。McGraw-Hill Information Systems Co. (土木建築情報) 及び Standard & Poor's Corp. (株式情報) は比較的最近買収合併された二会社である。McGraw-Hill Book Co. の出版分野の中心は言うまでもなく大学教科書であるが、その分野は広く人文・社会・自然科学及び技術の専門書から小中高校教科書、英文速記・タイプ・会計等のビジネス指導書、児童向け絵本、小説美術等の一般書、教育用映画フィルム等を網羅している。亦 American Heritage Publishing Co. (辞書)、Educational Developmental Laboratories (教育機材の開発製造販売)、Spitz Laboratories (プラネタリウムの製造販売)、他三社を子会社として擁している。

現在の発行点数は9,000点を越え、年間の新刊新版は800点に達する。これらの米国内配給は Hightstown, N. J., Manchester, Mo., と Novato, Calif. にある三大倉庫より行っているが、海外への配給機能は Hightstown に集中している。プロモーション活動は、特に International Division (国際販売部) 直属の東京支局が、その主要業務の一つとして、三ヵ月先の予定を含む新刊案内「New From McGraw-Hill」を毎月編集出版し、各種カタログ及び宣伝物と併せて、洋書輸入業者をはじめ、大学等の図書館、研究室、各種研究機関、各種学校、アメリカン・スクール等亦海外の10の支社と7つの支局を通し全世界にこれを配付し強力に進めている。亦、東京支局は、教科書及び専門書を主とする約2,000点を展示しているが、今後はますます洋書輸入業者各位の密接なる協力を得て、新刊新版書を出来るだけ多く展示し、各位の利用に供したいと希望している。

総代理店ご案内

（株）紀伊國屋書店 ☎ 354-0131

Ferdinand Keip, Frankfurt/main
Rechtsvergleichendes Handwörterbuch für das
Zivil- und Handelsrecht des In- und Auslandes.
(Hrsg. v. F. Schlegelberger)
Bd. 1-7 Lieferung 1-3 (all publ.) Berlin, 1929-
1940. (Available 1970 Summer) set ¥ 115,000

Georg Olms, Hildesheim
Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich.
(Hrsg. v. Statistischen Amt)
Bd. 21-59. Berlin, 1900-1942.
(Available 1970-71) Sub.-price set ¥ 459,080
price set ¥ 561,430

（株）極東書店 ☎ 265-7531

Verlag Detlev Auverman KG, Glashütten im Taunus
Strauss, Geschichte der deutschen Sozialdemo-
kratie Böhmens. 2 vols. 1970 ¥ 10,350
Zentralantiquariat der DDR, Leipzig
Sozialdemokratische Bibliothek. 3 vols. 1970
ca. ¥ 28,200
Schröder, W., Handbuch der sozialdemokratischen
Parteitage von 1863-1909. 1970 In Vorbereitung
Gesellschaftsspiegel. 12 numbers. In Vorbereitung

丸 善 ☎ 272-7211

Environment Law Review 1970
Ed. by H. Floyd Sherrod, Jr.
Publishers: Clark Boardman, New York
ca. ¥ 11,800
Cornelis, Petrus-Arsene.-
Europeans about Europe: What european
students know and expect of the unification
of Europe, a study in social psychology.
Publishers: Swets & Zeitlinger, Amsterdam
¥ 3,420

ナ ウ カ （株） ☎ 264-0023

Sovremennik (Cobpemehhnik)
St. Peterburg, 1836-1866.
Series I: 1836-1846. 44 vols. 15,528 pp.
刊行予定: 1970年前期 set ¥ 273,000
Series II: 1847-1866. 114 vols. (準備中)
(Zentralantiquariat)

Trudy Moskovskogo Matematicheskogo Obshchestva
Vols. 1-15, 1952-1966 set ¥ 161,000
per vol. 11,040

（株）竹内書店 ☎ 404-8571-5

Zeitschrift für Sozialforschung
Herausgegeben im Auftrag des Instituts für Sozial-
forschung von Max Horkheimer. Ab 1941: Studies
in Philosophy and Social Science. Published by the
Institute of Social Research. Leipzig-Paris-New York.

1932-1941. (Kösel-Verlag, München)

刊行時期: 1970年秋

価 格: 全巻予約価 (70年11月30日まで)

インデックス共 ¥ 97,750
全巻定価 (上記以後) ¥ 109,250
各巻 (分売価) ¥ 13,800
インデックスのみ Paper ¥ 1,720

Business Planning Guide Series; 10 Year Computer
Forecast. By W. S. Fedor 32 Vols.
(Technomic Pub. Co., Inc.)

Vol. 1. Economic Growth in the 70's
Vol. 2. All Manufacturing Corporations
Vol. 3. Transportation Equipment
Vol. 4. Motor Vehicles and Equipment
Vol. 5. Aircraft and Parts
Vol. 6. Electrical Machinery, Equipment, and
Supplies
Vol. 7. Nonelectrical Machinery
Vol. 8. Metalworking Machinery and Equipment
Vol. 9. Fabricated Metal Products
Vol. 10. Primary Metal Industries
Vol. 11. Primary Iron and Steel
Vol. 12. Primary Non-Ferrous Metals
Vol. 13. Stone, Clay, and Glass Products
Vol. 14. Furniture and Fixtures
Vol. 15. Lumber and Wood Products, Except
Furniture
Vol. 16. Instruments and Related Products
Vol. 17. Food and Kindred Products
Vol. 18. Dairy Products
Vol. 19. Bakery Products
Vol. 20. Alcoholic Beverages
Vol. 21. Tobacco Manufactures
Vol. 22. Textile Mill Products
Vol. 23. Apparel and Other Finished Products
Vol. 24. Paper and Allied Products
Vol. 25. Printing and Publishing, Except
Newspapers
Vol. 26. Chemical and Allied Products
Vol. 27. Basic Chemicals
Vol. 28. Drugs
Vol. 29. Petroleum Refining and Related Industries
Vol. 30. Petroleum Refining
Vol. 31. Rubber and Miscellaneous Plastics Products
Vol. 32. Leather and Leather Products
全 32 巻 ¥ 150,000
いずれか 10巻 75,000
いずれか 5巻 50,000
いずれか 1巻 12,500

ユニテッド・パブリッシャーズ・サービス社
☎ 262-5278

Gordian Press/Phaeton Press (U. S. A.)
All Publications

Arno Press (U. S. A.)
(A Publishing and Library Service
of the New York Times)

G. Duckworth and Co. 6月末日をもって同社の代理店業
務を停止いたします。

Dictionary of Scientific Biography

Charles C. Gillispie, Editor in Chief

Edited under the auspices of the American Council of Learned Societies
with the support of the National Science Foundation

Until now, there has been no adequately comprehensive reference work to which historians, scientists, students, and interested laymen could turn for authoritative information on the entire history of science. The *Dictionary of Scientific Biography* has been planned to fill that need. It will bring together for the first time the accumulated knowledge of an international body of historians of science and general scholars. The entire work is expected to comprise thirteen volumes.

More than 4,500 subjects—natural scientists and mathematicians of all periods and all regions—will be covered in articles of varying lengths. Each article will contain precise and essential information, often based on original research and always composed from a direct knowledge of original sources. Not a mere tabulation of titles, dates, discoveries, and laws, the articles, each written by an eminent modern specialist, will convey in essay form the subject's scientific per-

sonality and describe his work in relation to that of his predecessors, contemporaries, and successors. A valuable selective bibliography follows each article. The final volume, an extensive index, will permit the reader to trace given concepts, periods, or topics throughout the entire work.

Destined to become an invaluable reference work for the whole world of learning, the *Dictionary of Scientific Biography* will also stimulate readers to think through scientific problems as they developed in the history of science, and help them understand them in relation to the state of scientific knowledge, both past and present. Modeled on the celebrated *Dictionary of American Biography* and the *Dictionary of National Biography*, the *Dictionary of Scientific Biography* will prove indispensable to scholars, students, researchers, scientists and educators, and to all public, school, and college libraries.

Volumes I and II available now. \$ 35.00 per volume.

Published by CHARLES SCRIBNER'S SONS

Distributed by **McGRAW-HILL BOOK COMPANY**

昭和45年7月 通巻第39号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329